

日本多施設共同コーホート (J-MICC) 研究
2023 年度 第 1 回 外部評価委員会 議事録

日時：2024 年 2 月 14 日 (水) 15:00～17:00

場所：JR ゲートタワーカンファレンス 会議室 B5 (愛知県名古屋市中村区名駅 1-1-3)

出席者 (敬称略)：

田島和雄 (委員長)、市川衛、齋藤英彦、森際康友、横山正 (以上、委員)、
松尾恵太郎 (主任研究者)、若井建志 (中央事務局長)、田村高志、永吉真子 (中央事務局)

主任研究者 (松尾) より、開会の挨拶が述べられた。委員長 (田島) より、コホート研究の継続の重要性が述べられ、本委員会の目的と意義があらためて説明された。

1. ²⁰²²令和 4 年度第 1 回外部評価委員会 議事録の確認 (2023 年 3 月 1 日開催) (資料 5)
委員長 (田島) より、令和 4 年度第 1 回外部評価委員会議事録 (メールにより委員に回覧し確定済) の内容があらためて確認された。

2. 中央事務局の体制について (資料なし)

主任研究者 (松尾) より、中央事務局の業務負担が増加しているため、中央事務局長 (若井) に加えて、中央事務局長代理 (田村) を設けていることが説明された。J-MICC 研究の現状と今後の展望が述べられた。

3. 運営委員会、全体会議の報告 (資料 6-1-1)

主任研究者 (松尾) より、運営委員会、全体会議および各関係会議の議事内容が説明された。研究上の重要な変更として、運営委員会で議論の上、モニタリング委員会にも諮問し、J-MICC 研究の追跡期間を 10 年延長すること (2035 年末までとすること) を決議したことが報告された。委員長 (田島) より、当初の追跡期間を延長することになった経緯と理由について質問があった。主任研究者 (松尾) より、研究費の維持や獲得が背景にあることが説明された。

- (1) 倫理審査の実施状況 (資料 1-2)

会議時間の都合で本議題は割愛された。

- (2) 解析テーマ公募、公募募集への活動 (資料 1-3)

中央事務局長 (若井) より、J-MICC 研究は研究経費の大部分を文部科学省科学研究費 (科研費) 新学術領域研究「コホート・生体試料支援プラットフォーム (CoBiA)」より受けていることがあらためて説明された。CoBiA は生体試料やデータ、関連技術の提供によって、科研費にもとづく研究を支援することをその趣旨としており、J-MICC 研究は CoBiA による助成が大きく、相応の役割を期待されていることが述べられた。取得しているインフォームド・コンセントの内容などに留意しつつ、解析テーマの公募、データ使用の許可という形で、科研費による研究を支援していることが説明された。現在行われている解析テーマ公募の種類と現状、および解析テーマ公募への応募を増やすための活動が説明された。また募集カテゴリーごと

の承認済のテーマ数、公募で採択したテーマ数、論文受理数が報告された。主任研究者（松尾）より、日本疫学会で独自企画を行うなど広報活動を積極的に行っていることが述べられた。委員長（田島）より、今後の公募件数の増加に期待が寄せられた。

4. 研究費の状況について（資料14）

主任研究者（松尾）より、J-MICC研究が助成を受けている研究費として、文科省科研費 学術変革領域研究（研究領域提案型）『学術研究支援基盤形成』「コホート・生体試料支援プラットフォーム（CoBiA）」、国立がん研究センター研究開発費「ゲノム情報を用いた一次・二次予防のための技術開発と連携研究基盤の構築と運用」の2つがあることが説明された。委員長（田島）より、他の研究費の獲得状況について質問があった。主任研究者（松尾）より、各地区が独自に獲得している個別の研究費はあるものの、J-MICC研究全体に助成されている研究費は資料記載どおりであることが述べられた。

5. 各種委員会の開催状況（資料15）

主任研究者（松尾）より、昨年度の外部評価委員会以後の各種会議および委員会の開催状況が報告された。

6. ベースライン調査、第二次調査の進捗状況（資料16-19）

中央事務局長（若井）より、ベースライン調査は2005年（J-MICC連合の地区は2004年2月）に開始し、2014年までに終了したことが述べられた（2016年度からベースライン調査を開始した神奈川県みらい未病コホート研究を除く）。研究参加者数は、J-MICC連合を含めて約106,000名であることが述べられた。第二次調査はベースライン調査の約5年後に実施することとしており、2010年1月から開始し、2020年4月までに終了したことが述べられた（神奈川県みらい未病コホート研究を除く）。第二次調査の研究参加者は、J-MICC連合を含めて約61,000名ではあるものの、当面の解析対象者は約54,000名で、対応するベースライン調査解析対象者の約2/3であることが報告された。また各地区における研究参加者の詳細、および中央事務局への生体試料の提出状況が示された。委員長（田島）より、生体試料提出状況の資料の表の誤りが指摘された。

7. 追跡調査の進捗状況（資料20-22）

1) 死亡・転出等追跡

中央事務局長（若井）より、参加者の死亡および転出の調査は、研究参加者への調査、住民基本台帳の閲覧、住民票・同除票の請求（生存・住所確認）、および人口動態調査死亡小票の閲覧（死因）で実施しており、これまでに2020年の死亡・転出分まで終了したことが述べられた（一部は2021年まで）。死因の約60%が新生物で、2023年10月に解析用データセット（神奈川県みらい未病コホート研究の参加者、J-MICC研究全体の対象年齢外の参加者、および同意撤回者を除外した92,514名）を更新したことが述べられた（平均追跡期間11.4年、死亡者数8,170名[8.8%]）。今後も死亡小票閲覧（地区により1年または2年に1回実施）ごとに、追跡期間を延長したデータセットを作成する予定で、現在は2021年死亡分の死亡小票閲覧を実施していることが述べられた（一部地区は2022年分も実施）。

2) がん罹患追跡

中央事務局長（若井）より、2015 年末までの診断のがん罹患は、地域がん登録、出張採録、研究参加者への調査、医療機関照会などで把握していたが、2016・2017 年診断のがん罹患については、全国がん登録から提供された罹患情報を連結して、2017 年末までのがん罹患追跡解析用データセット（平均追跡期間 8.2 年）を 2021 年 9 月に作成したことが述べられた。全国がん登録が発足した 2016 年以降のがん罹患症例で、全国がん登録によらずに収集された情報については、J-MICC 研究全体としては当面は利用しないことが説明された。現在は 2018・2019 年診断のがん罹患症例の情報提供を全国がん登録に申請しているが、全国がん登録側の事情で提供が遅れており、情報が提供され次第、罹患情報の更新を図る予定であることが述べられた。

3) 循環器疾患罹患追跡

中央事務局長（若井）より、循環器疾患については「循環器疾患グループ会議」を中心として、関心のある研究機関のみが集まって検討する予定であったが、「コホート・生体試料支援プラットフォーム (CoBiA)」では、がん以外の研究への支援も求められていることから、J-MICC 研究全体の研究計画として、循環器疾患を正式に追跡調査対象と位置づけたことが述べられた。J-MICC 研究の 15 地区中、9 地区から中央事務局に循環器疾患罹患情報が提出されており、脳卒中罹患 5 地区、心筋梗塞 3 地区を最初のデータセットの対象地区としたことが述べられた。脳卒中罹患データセットの作成を 2023 年 12 月に終え、心筋梗塞罹患データセットについても今年度中の完成を目標に作業を進めていることが述べられた。

委員より、レセプトデータを活用した循環器疾患罹患情報の紐付けについて質問があった。主任研究者（松尾）より、インフォームドコンセントや研究計画上の事情、技術的な課題があることから、レセプトデータを活用した循環器疾患罹患の追跡は困難であることが述べられた。また心筋梗塞罹患については、冠動脈インターベンション（予防処置）などの介入があることから、新規発症の追跡調査に難しさが伴うことが述べられた。

8. 共同研究の実施状況（資料 2 3）

主任研究者（松尾）より、J-MICC 研究と外部研究者との共同研究（オーダーメイド医療の実現プログラム、症例対照研究の対照データ提供、candidate gene approach 横断研究の外部研究者公募、国際コンソーシアム、国内プール解析・メタ解析への参加、がん早期診断マーカーの検証、日本ゲノムコホート連携など）の進捗が報告された。

委員長（田島）より、がん早期診断マーカー検証の進捗状況について質問があった。主任研究者（松尾）より、これまでの公募課題（肺腺癌、大腸癌、膵臓癌）の中で、新規バイオマーカーに関する論文がほぼ投稿されていない実情が説明され、既存のバイオマーカーを上回る新規バイオマーカーの発見に難しさがあることが述べられた。委員より、共同研究における J-MICC 研究側の共著者ルールについて質問があった。主任研究者（松尾）より、J-MICC 研究側の共著者については、運営委員会を通じて各地区から共著者の推薦を募っており、地区で輪番としていることが説明された。

9. 学会・論文発表状況（資料 2 4・2 5）

主任研究者（松尾）より、1) J-MICC 研究全体データにもとづく研究、2) J-MICC 研究全体での共同研究、3) J-MICC 研究の地区独自の研究について、これまでの論文数と学会発表数が報告された。年ごとに論文数、掲載された学術誌のインパクトファクター、

被引用回数をそれぞれ積み上げてグラフ化し、また被引用回数の多い論文を抽出して、これまでの研究成果を可視化していることが述べられた。

10. J-MICC研究ホームページについて（資料26）

主任研究者（松尾）より、J-MICC研究公式ホームページのデザインを大幅にリニューアルしたことがあらためて説明され、J-MICC Plus 記事（研究者向け）にgraphical abstractをあらたに導入したことが述べられた。また昨年の代表論文2編（共同研究を含む）が紹介された。委員より、J-MICC Plus記事へのアクセス数について質問があった。主任研究者（松尾）より、記事へのアクセス数をあらためて確認することが述べられた。また現在のJ-MICC Plus記事を一般向けにすることには難しさがあり、専門のライターに依頼する計画であることが述べられた。

11. その他（資料なし）

主任研究者（松尾）より、来期の委員継続が依頼され、委員全員が了承した。委員長（田島）より、J-MICC研究の今後の研究成果に期待が述べられた。